金城学院大学　シラバス

開講年度(Year)	2021年度	開講科目コード(Course code)	37460001
授業科目名(Course name)	音楽芸術学演習（４）		
担当者(Instructors)	能勢 健司		
開設学部学科(Department)	文学部　音楽芸術学科	科目分類番号(Course classification number)	263
開講クラス(Class)	音４	開講形態 (Course format)	演習
科目区分(Course classification)	専門教育科目 専門教育科目	単位数(Credits)	1
開講期・曜日・時限(Semester / Day of the week / Period)	後期 木曜２限	担当形態 (Instructor format)	単独
実験実習費（円）(Experiment/training fee (yen))		履修者数上限（名）(Maximum number of students)	52

他学部他学科生履修不可(No other undergraduate departments students can study)

■授業の概要(Course outline)

どの音楽を奏でる際にも、フレージングやメロディーを歌うことは大きな課題になると考えられる。音楽の原点である声楽を実践して学ぶことで、声の可能性と、『歌う』ことの大切さを体感させ、声楽教則本のコンコーネ５０番、イタリア古典歌曲、シューベルト歌曲、日本歌曲を学生の声、レベルと個性にあわせてとりあげながら、声楽の基本や、それぞれに適した楽曲表現を学んでいく

■到達目標(Course goals)

発表演習、マスタークラス（公開レッスン形式）により演奏力が更に向上している。

■履修上の留意点(Important points)

■学位授与方針 (Diploma policy)

１．知識・理解

音楽芸術に関する専門的知識と演奏技能を身につけるとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。 ◎

２．汎用的技能

音楽芸術の実技と理論を通じて身につけた感性と思考力を用いて、物事を的確に分析し考察することができる。 ◎

日本語や英語で多様な人々とコミュニケーションを行うとともに、音楽演奏を通じて様々な楽想を適切に表現し伝えることができる。 ◎

３．態度・志向性

自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。 ○

４．統合的な学修経験と創造的思考力

これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな研究課題に取り組むことができる。 ◎

■授業計画(Lesson plan)

1. 良い声とはなにか。声楽に必要な柔軟な体を作るエクササイズの実践。
2. ベルカント唱法とは何か。声の支えを感じる。ヴォカリーズ練習（半音）
3. 柔軟な声。下顎と舌根の脱力。ヴォカリーズ（全音）

4. きれいな母音を作る。ヴォカリーズ練習（A.E.I.O.U）
5. ヴォカリーズ＋コンコーネ５０よりNo.1　スケールでの息の運び
6. ヴォカリーズ＋コンコーネ５０よりNo.２　全音のフレーズ感。
7. ヴォカリーズ＋コンコーネ５０よりNo.３　レガートの息の流れ。
8. イタリア古典歌曲（１）イタリア語の発音と発語　「Caro mio ben」を用いて。
9. イタリア古典歌曲（２）正しい技術と表現　「Caro mio ben」を用いて。
10. イタリア古典歌曲（３）イタリア語作品の音楽表現「Sebben crudele」を用いて。
11. シューベルト歌曲（１）ドイツ語の発音と発語　「Frühlingsglaube」を用いて。
12. シューベルト歌曲（2）ドイツ語作品の音楽表現　「Heidenröslein」を用いて。
13. 日本歌曲（１）日本語の発音と発語、及び技術と表現　「かやの木山の」を用いて。
14. 日本歌曲（２）日本語作品の音楽表現　「からたちの花」を用いて。
15. 授業内試験と講評

■授業時間外学修（予習・復習）の内容・時間(Preparation/review details and time)

演奏技術向上の為、自己の課題を見つけ、日々練習や研究をする

■課題／課題に対するフィードバックの方法(Assignments/feedback)

レッスンで学んだことや課題を持ち帰り、真摯に自分の技術や音楽表現のスキルアップをはかろう！

フィードバックは授業時に随時対応する。

■テキスト・参考書(Textbooks/references)

コンコーネ５０番　イタリア古典歌曲集　シューベルト歌曲集　日本歌曲集等
＊学生の技量と進度にあわせて

■評価方法(Evaluation method)

実技試験　70%

関心・意欲・態度　30%

■授業時間外の学生からの質問への対応(Responding to questions from students outside class hours)

授業時間前後またKmail等で随時受け付ける